

# 第1回 生活部会 報告書

令5年5月15日

<b>開催日時</b>	令和5年4月26日(水)10:00～	<b>場所</b>	基幹相談支援センター 会議室
<b>部会員</b>	高橋部長・小出照之さん(ともいきライフ月影)/内堀副部長・大島さん(地域生活支援センターCoCoちくま)、酒井副部長(稲荷山太陽の園)、西條さん・松澤さん(まごころ)、杉本さん(じゃがいも)、神山さん・松澤さん(はなたば(いなりやま福祉会))、青木さん(いなりやま福祉会)、佐藤さん(千曲市手をつなぐ育成会)、坂井さん(ボスケツ(しのの福祉会))、大久保さん(サンライズ相談室)、山城さん(坂城町社協訪問介護事業所)、中澤さん・北澤さん・本多さん(基幹)/高尾さん(坂城町福祉健康課)/橋立係長・中島(千曲市福祉課)		
			出席 21 名

(1) 報告事項、ほか

<p>○昨年度の活動報告、及び今年度の活動計画について                  一昨年度は、GHのサビ管中心だったが、昨年度は居宅や生活介護事業所も参集者に加えて活動した。また、本年度の活動計画については、魅力発信動画の作成、福祉計画に沿った地域課題の検討等で活動していく。令和4年度の活動状況等および令和5年度活動計画は別添のとおり。</p> <p>○医療的ケアコーディネーター                  令和5年度に千曲・坂城地域で1名配置されることになった。千曲・坂城障がい者(児)基幹相談支援センターの中澤所長が務める。</p>
---

(2) 協議事項 および 内容

<p>○4つのグループに分かれ、以下内容についてグループワークを実施した。詳細は別添のとおり。</p> <p>①地域移行について、②部会で学びたい研修、③事業所の抱えている課題について(事業所内について・地域全体について)</p>
---

(3) 結果

<p>グループワークで、地域移行について、考えていることや、現場の様子、本年度の部会で取り組みたい内容について意見を出し合った。また、学びたい研修についても意見を交わした。</p>
<p>地域連絡会で検討したい課題 [ ]</p>

(4) その他 (お知らせ・次回開催日など)

<p>○次回開催日: 令和5年7月12日(水)午前10時00分～</p>
--------------------------------------

<別紙詳細>

(5) 協議内容 (詳細)

令和5年度 第1回生活部会 グループワークから出された内容 (R5.4.26実施)

【地域移行について】

(地域移行について考えていること、現場の様子、部会で取り組める内容・・・等々)

○地域移行の先として、GHの体験の場、緊急時のSTの場が必要。この地域にどれだけの社会資源があるのかをまずは把握した方が良い。

○生活の場としてGHが挙げられるが、GHは職員の不足や人材育成の課題を抱えていて、24時間の支援は困難。まずはGHの人材育成(研修等)や人材確保が必要。

○地域移行先としてGHが挙がるが、この地域にはどんなホームがあるのか支援者も知らない。GHは運営している事業所によって得意不得意があったり、入所している方たちによって特徴が出てくる。

→GHごとの特徴や雰囲気をみんなで共有することから始めたらどうか。

○「地域移行」とは聞くが、普段職員間で話題に上がることがなく、イメージもしにくい。知らないことが多い。

→みんながイメージしやすい様に、地域移行を進めた実践から学ぶ時間を作ってはどうか(成功例のプロセスから考える)。

○地域移行を進める時に、入所施設からGH(地域)へと、一方的に考えるだけでは、地域に出た後つまづいた時が心配で安心して地域移行ができない。GHに移行してもつまづいたら入所に戻れるといった、行ったり来たりできる環境が必要。また、それを本人中心に進められるように、相談支援専門員の力が必要。地域移行には、相談支援専門員の存在は大変大きくて、社会資源があっても適切な支援、適切なコーディネートがなくては地域移行が進まない。

→この地域に一般相談のできる相談員が必要、一般相談のプロセスを知る必要がる。事例を通して学ぶ機会を作ってはどうか。

【学びたい研修内容について】

○GH、入所施設と入居者の高齢化が進んでいる。高齢化に対応した専門的な内容。

→外部の高齢化が進んでいるホームなどの実践を聞くのはどうか。

○強度行動障がいの方(行動障がい)の方の支援について

特性や対応方法など、特に世話人にもわかるように、わかりやすい内容が良い。

○精神障がいの方との関係作りについて

特にクスリの知識について、現場も知っておく必要がある。事例を通しながらクスリの使い方、効き方などを知りたい。

○発達障がいの方の理解の方法、支援方法について

年齢によって支援方法も変わってくるので、年齢に合わせた支援の方法を学びたい

○研修を受けても情報を職員間で共有ができない。

→チームとしての情報共有について、またはチーム支援についての研修はどうか

【事業所で抱えている課題について】

○職員の数はギリギリなのに、利用者の高齢化によって支援量は増えていく。高齢化への対応が大きな課題になっている。

○給料が低い。この仕事は好きだし、やりがいをもって働いているが、現実問題として給料が低い。特にこれから入職してもらいたい若い職員にとっては問題で、障がい福祉現場に人が来ない原因の一つになっている。

○利用者の工賃計算が煩雑、事務手続き全体が複雑で処理が大変。

【地域全体の課題について】

○法人や事業所だけでは適切に研修ができないため、外部の方が派遣する形で研修ができないか→今でもできるかな

○事業所を広げる時に、行政の知っている空いた土地や空き店舗などの情報提供があると良い。地域としても空き家の有効活用として良いのではないかな。

○GHからアパート暮らしへ、福祉就労から一般就労へと言った時に、地域社会の方の障がい理解が薄く、理解が進まないため、ご本人が希望したように進められない。

アパートの契約は障がいを理由に断られてしまうことがある。